

第3回庭野平和賞奨励賞受賞者



エリサベット・モレーノ・バルコ氏

国籍： コロンビア

1968 年生まれ

宗教： カソリック

所属等： 人権擁護活動家

コーディネーター、チョコ連帯民族間フォーラム

贈呈理由：

人々から「チャバ」と親しみを込めて呼ばれるエリサベット・モレーノ・バルコ氏は、コロンビアの長期にわたる内戦によって避難を余儀なくされた 800 万人のコロンビア人の一人である。

世界的な注目を集めた、2016 年の「コロンビア革命軍（FARC）」（中南米最大の反体制武装ゲリラ組織）と政府の和平合意にもかかわらず、チョコ県は現在も紛争地帯であり、複数の武装集団が活動している。その中には、FARC の残党を含む左翼ゲリラ組織、右翼準軍事組織、麻薬犯罪組織などがあり、人々はその武力衝突に巻き込まれている。

チャバは、このチョコ県で数十年に渡ってコミュニティ・リーダーを務めており、地域社会の問題に対する彼女の深い見識や、平和と人権に対するコミットメントが広く認められたことで、計 72 のアフロ・コロンビア人コミュニティが構成する「サン・フアン・コミュニティ総評議会（ACADESAN）」を率いることになった。この強固な草の根組織は、カトリック修道女会であるマザー・ラウラ宣教修道女会（通称 “ラウリータス”）の持続的で長期的な支援を受けて、1980 年代から組織化され、国内でも最初に設立された民族評議会の一つである。

2023 年 5 月からは、市民主体のより大きな連合組織「チョコ連帯民族間フォーラム（スペイン語で Foro Interétnico Solidaridad Chocó, FISCH、英語では Inter-ethnic Forum Solidarity Chocó）」のコーディネーターとなった。FISCH は、武装組織による銃撃戦に巻き込まれた市民を支援する人道的活動を主導するとともに、これらのグループを現在進行中の政府主導の和平交渉に参加させるための、アドボカシー活動も行っている。

FISCH は、地元のカトリック教区、国連、その他多くの人権団体や避難民支援団体、そしてコロンビアのほかの地域にあるアフロ・コロンビア人や先住民に関わる組織と、緊密に協力している。チャバは、時に武装勢力との交渉にも携わり、長期的に内戦による避難民のコミュニティを支援してきた勇気ある活動によって、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）より「ナンセン難民賞」を授与され、国連安全保障理事会でも演説を行った。同賞は、画期的なアプローチで献身的に難民保護と支援に携わり貢献した、あるいは勇敢な姿勢で難民問題に取り組み、状況改善に功績を残した人物に送られる賞である。

また最近では、地域だけでなく、国家レベルでの活動においても指導的役割を担い、民族領土における和平合意の形成に関わることで、その実現を推進する役割を委任された機関「コロンビア民族特別高等機関（IEANPE）」にも参加している。

彼女をよく知る地元のキリスト教シスターは、「人々の権利のための交渉の会合で、男たちを含む誰もが、怖がってものを言わなかった時、チャバだけが、一人席を立ちあがって、力強く発言したんです」と語っている。

人々に寄り添い、多くの避難民の権利と生命の保護、そして地域の平和のために、身の危険を顧みず、活動を続けるチャバこと、エリサベット・モレーノ・バルコ氏を称え、彼女を第3回の庭野平和賞奨励賞の授賞者と決定した。